

## ■ これからのイベント情報

### 第5回 シン・サンポ ~帶金地区編~

当館館長と一緒に地域の歴史を見て・歩く、アウトドア版館長講座。  
歴史探訪第5弾は、身延町帶金地区をテーマに地域を散策します。

- ・日 時：12月14日（日）9時30分 JR身延線塩之沢駅に集合、正午解散
- ・参加費：無料
- ・定 員：15人 ※要事前申込。定員になり次第締切
- ・持ち物など：歩きやすい服装でおでかけください



要申込

### 第6回 館長講座 ~ 穴山武田氏と信玄・勝頼・家康 ~

- ・日 時：2026年1月17日（土）13時30分～14時30分

・場 所：博物館1階 多目的ホール

※聴講無料。事前申込不要。当日、時間までに当館へお越しください

### 第14回 金山遺跡・砂金研究フォーラム

「博物館応援団Au会」のみなさんが企画・開催。  
金山や砂金についてのフィールドワークの成果をテーマとした研究発表会です。気軽にご聴講ください。

- ・日 時：2月7日（土）13時～
- ・場 所：博物館2階 映像シアター
- ・定 員：50人 ※要事前申込。博物館へお電話ください。定員になり次第締切
- ・参加費：500円（博物館観覧料含む）

要申込

### 金山博物館のお正月

1月2日（金）から通常開館いたします！（午前9時～午後5時 ※最終受付は午後4時30分）  
博物館のお正月は楽しい・嬉しい企画が盛りだくさん。新年のスタートを一緒に明るく楽しく過ごしましょう！

#### ▶入館先着100人限定！

干支根付プレゼント！

来年の干支「午」モチーフの根付を付けて運気アップ！？金・白・ピンク・水色のカラーからお選びいただけます。  
※お一人ひとつまで

#### ▶新年お年玉たまごくじ

毎年恒例のお楽しみ、チケットご購入の小学生以下のお子様限定！思わず大人もほしくなるような豪華景品をご用意。くじを引いて新年の運試しをしてみよう。  
※お一人一回まで

#### ▶年に1度のスペシャル缶！

福缶 2025

※限定100缶、なくなり次第終了  
自宅でも砂金採りができる売店商品「ピックリ！砂金缶」のお正月ver.「福缶 2025」を発売！新年をお祝いする縁起物がぎゅっとつまつた逸品です。

### 編 | 集 | 後 | 記

気がつけばまたもなく11月。周辺の木々も赤や黄色に色づき、滴る季節から山粧う季節になりました。博物館前には標高約1600mの五老峰（ごろうぼう）という山があり、空に突きさるようにそびえ立っています。この山を日々見ていると、高いところから低いところへ、紅葉の波が伝わっていることを観察できます。今はまだ1/3くらい。これからますます広がる紅葉の景色が楽しみです。秋のお出かけ日和。紅葉を楽しみつつ、ぜひ当館へもおいでください。（編集K & I）



## 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館だより

第113号  
令和7(2025)年10月27日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館  
〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先  
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003  
博物館HP▶https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/  
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん▶X & Facebook



# 甲斐黄金村・ 湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡一中山金山

No.113

2025.10.27



## 湯之奥・茅小屋金山遺跡調査始動！

戦国時代に端を発する湯之奥3金山は、日本の鉱山・産業技術史の転機を担った初期山金山です。ガイドンス館である当館では、中山・内山・茅小屋で構成される湯之奥3金山の調査を継続的に行い、当町固有の金山文化史（技術史）の継承を図って参りました。これらの調査結果を展示や教育普及活動を通じて、広く発信し続けることで町民の皆さんのが金山の歴史に関心を寄せ“地域の誇れる宝”という心の醸成を図っています。

さて、湯之奥3金山を構成する内山・茅小屋両金山はいま、自然災害による遺構損失・消失の危機にさらされています。中山金山と同等の歴史価値を孕んだ2金山遺跡の記録保存のため、発掘を含めた調査による実態把握の必要が、今まさにあります。

2025年7月、関係者の念願かなって帝京大学との連携協定による協力を得て、調査実施が現実的なものとなりました。この調査推進は、日本の産業史的にも重要度が格段に高く、その後に開発された他鉱山遺跡の歴史解明につながるもので、謎多き初期山金山操業の実態解明は私たちの心に何をもたらしてくれるのか。歴史的新発見の可能性にドキドキしませんか？

# 身延の寺の江戸出開帳について

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 信藤祐仁

開帳には居開帳と出開帳がある。普段厨子などに入っていて秘仏とされている扉を開いて拝観できるようにする居開帳と、他の土地に運んで御開帳をする出開帳である。出開帳は普段遠方にあって拝観の困難な地方の神仏を、江戸や大坂などをはじめとする人口の多い都市の寺院に運び、多くの信者に結縁を促す機会を創出するのが目的である。しかしその実態は、寺社の経営のため御堂再建などの募金活動として行われるのが一般的であった。

平安時代末の承安元年（1171）、宮中において毎夜天空に七重の妖光が現れる怪異が続き、時の高倉天皇は病気になってしまった。誰もこれを退ける者もいなかったが、甲斐源氏の加賀美遠光が宮中の警護に当たって強弓を打ち鳴らす躰鳴弦（ひきめいげん）の術を用いて妖光を退散させることができた。遠光は病の癒えた天皇から、褒美として京都御所清涼殿に安置されていた不動明王像を賜った。



大聖寺不動明王坐像(国指定重要文化財)

※身延町 HP 身延町の文化財 (<https://www.town.minobu.lg.jp/bunka/rekishi/2017-0609bunnkazai.html>) より

桧材の一木造で、両眼を見開き上歯で下唇を噛む恐ろしい憤怒の表情をしている。右手に剣を左手に綱索を持ち、弁髪を垂らす等身大の像。丸みを帯びた顔つきやふくよかな体躯は、総体として古様な雰囲気を保っている。いかにも宮中伝来という高貴な由緒にふさわしく、気品に満ちた威厳と風格を備えている。この不動明王像は靈験あらたかな像として篤く信仰され、都合3回江戸に運ばれて出開帳を行っている。元禄9年（1696）年王子の金輪寺、宝永8年（1711）両国の回向院、安永7年（1778）大塚の護国寺である。

江戸出開帳の四天王といわれたのは、下総成田山新勝寺の不動明王、京都嵯峨野の清涼寺釈迦如来、信濃善光寺の阿弥陀如来と甲斐身延山久遠寺の祖師（日蓮）像である。宿寺として会場にあたったのは、身延山の場合深川の淨心寺でのみ出開帳されており、當時古佛堂像と奥之院像が交互に出開帳されていた。古佛堂像は現在身延別院（日本橋）にあって東京都の指定文化財。身延山大学講堂の祖師像が奥之院像と推定されている。



久遠寺日蓮聖人坐像(町指定文化財)

## ■調査研究活動 01 7/9 水 調査研究促進へ 身延町と帝京大学が協定締結

湯之奥金山遺跡の解明に関する連携研究・事業を円滑に行うため「身延町と学校法人帝京大学との連携・協力に関する協定」を締結しました。本協定は人的交流、連携研究の実施とその公開、連携事業に関する相互協力をうなぎのもので、湯之奥金山遺跡の調査をさらに進めていく上で大きな一歩となりました。

## ■調査研究活動 02 9/25 木 赤色立体地図を用いた研究がプレスリリース

公益財団法人科学技術広報財団が主体となり、日本地球科学教育普及協会、アジア航測株式会社、合同会社加速キッチンらの協力のもと湯之奥金山遺跡の高精度赤色立体地図を作成し、「湯之奥金山遺跡における赤色立体地図を使った戦国時代の人工地形の抽出と鉱山開発技術」と題して研究内容がまとめられました。赤色立体地図は尾根は白く、谷は黒く示され、微地形については、傾斜が緩やかであれば白く、傾斜が急峻になれば赤く示されるものです。これにより、地形図や航空写真では確認できなかった新遺構候補地を見つけることができます。今後は赤色立体地図での予測を基に現地踏査し、その性質を見極めていく必要があります。



詳細は[こちら](#)  
〔ジオ活〕クラブサイト

## ■調査研究活動 03 10/17 金 湯之奥金山遺跡等調査検討委員会を発足

7月の身延町と帝京大学との協定締結をへて、同大学の専門的知識技術に学びながら、茅小屋・内山2金山の調査実施が現実的なものとなりました。そうしたなか、専門家・学識経験者の協力を得て、湯之奥金山のさらなる歴史解明に向けた当委員会を立ち上げました。第1回委員会当日は、午前中に県林務担当者も交えて現地調査を実施、午後の委員会では、方向性や年度内の目標が議論されました。博物館を中心に町として事業を順次進めていき、その歴史をひろく発信してまいります。



■委員長 柳原 功一 帝京大学文化財研究所  
■委員 金井 拓人 帝京大学文化財研究所  
■委員 中西 哲也 九州大学総合研究博物館准教授  
■副委員長 久間 英樹 九州大学総合研究博物館専門研究員  
■委員 小田由美子 元新潟県佐渡金銀山世界遺産登録推進室長  
■委員 青木 美香 京都府立大学共同研究員

## ■活動報告 01 6/22 木 初開催！みのぶ町民砂金掘り大会

「地元の方にも砂金採りの楽しさを知ってもらいたい」という意図から、みのぶ町民砂金掘り大会を開催しました。お子さまから大人の方まで約30人が参加。ほとんどが砂金採りが初めてでしたが、そこはやはり砂金採り。30分間の体験時間は誰もが夢中でした。時間内で一番多く採った優勝者には記念品が手渡され、大会終了後は「楽しかった」、「また来たい」という感想も多く寄せられました。こうした事業をきっかけに地元の皆さんにお気軽に博物館をご利用いただきたいと思います。



## ■活動報告 02 7/26 土 湯之奥金山博物館杯 第25回砂金掘り大会

金山博物館の夏の風物詩、砂金掘り大会。今年も全国から200人を超える参加者が集まり、大きなぎわいを見せました。小中学生のジュニア部門、高校生以上の男女一般部門に分かれ競技し、各部門1位同士で頂上決戦を行いました。結果、今大会を制し総合優勝者となったのは幸野一輝さん（逗子開成中学校）。大人に負けない落ち着いたパンニングを見せてくださいました。第25回大会結果は次ページをご覧ください。

## 男女一般(U40)部門予選(8粒/10kg/10分)

順位	氏名	粒数	タイム(分.秒)
1	柳田 樹乃	8	4.25
2	吉村 ゆかり	8	5.20
3	伴 尊行	8	5.22
4	広瀬 義朗	8	5.41
5	高山 裕璃子	8	5.46
6	鰐川 銀	8	6.16
7	福家 遼平	7	6.19
8	斎藤 和也	8	6.38
9	戸上 暖太	8	7.04
10	岩柳 潤哉	8	7.09
11	澤原 夢	8	7.29
12	渡辺 清人	7	7.42
13	神田 蒼真	7	7.50
14	岩本 真奈	8	7.56
15	渡邊 優斗	8	7.57
16	平方 あゆみ	8	8.21
17	犬伏 弘樹	7	8.27
18	吉田 春	8	8.45
19	手塚 雅之	8	8.46
20	玉川 郁織	7	8.48
21	鳥丸 紗央里	8	8.57
22	梅原 悠太	7	9.14
23	白田 健悟	8	9.18
24	奥田 依織	8	9.18
25	古谷 優太	7	9.32
26	楳野 祐大	8	9.40
27	佐野 大樹	7	9.40
28	石部 聖	8	9.43
29	望月 光瑛	7	9.51
30	高村 学志	7	10.12
31	山宮 耕平	7	10.24
32	三木 廉音	7	10.32
33	堤 くらら	6	10.49
34	北下 千選	6	10.56
35	室 幸四郎	7	11.10
36	鈴木 誠吾	7	11.20
37	成島 秀樹	7	11.23
38	大山 啓佑	6	11.37
39	島谷 啓翔	7	11.43
40	近藤 大介	6	11.51
41	吉田 理紗	6	11.51
42	田上 智尋	7	11.52
43	南出 賢亮	7	11.53
44	木村 美凜	6	11.59
45	田村 浩章	6	12.10
46	大内 元氣	6	12.15
47	若林 翔	7	12.16
48	池田 朋香	5	12.26
49	広瀬 新太	6	12.33
50	足田 健人	6	12.39
51	神田 眲希	6	12.48
52	合田 光太郎	6	12.57
53	河村 亮佑	7	12.57
54	桑形 和樹	6	13.32
55	水落 巧	5	13.45
56	岩川 祐子	6	13.51
57	細川 美智子	6	13.56
58	手塚 謙次郎	6	13.58
59	星野 瑞貴	6	14.02
60	後藤 結仁	6	14.03
61	角田 悠真	6	14.07
62	仁木 劇太	6	14.23
63	本田 賢也	5	14.31
64	よだやかや	6	14.40
65	高橋 優倫	5	14.57
66	柏 孝太	5	15.00
67	大金 千寿	5	15.05
68	奥村 太紀	5	15.22
69	池田 健太	6	15.44
70	田村 美里	6	15.49
71	河口 周美佳	5	16.06
72	木内 保太郎	5	16.07
73	原 悠斗	5	16.26
74	高櫻 直生	5	16.28
75	永井 健太郎	4	16.33
76	すかわらたかし	5	16.57
77	乾 大介	4	16.59
78	藤原 聖幸	5	16.59
79	小暮 秀明	5	17
80	林 謙治	4	17.39
81	鶴見 祐人	4	18.04
82	鶴岡 寛	4	18.25
83	関野 遥人	4	18.46
84	新山 考二郎	5	18.54
85	長谷部 孝	4	19.15
86	井上 理緒	4	19.18
87	楼井 晃	4	19.33
88	川上 嘉久	4	20.36
89	福崎 吾太朗	3	20.59
90	寺田 譲太郎	3	21.06

## ジュニア部門(7粒/6kg/10分)

順位	氏名	粒数	タイム(分.秒)
1	杉本 啓真	3	21.3
2	佐藤 韶基	4	21.3
3	門井 洋平	4	21.58
4	矢吹 唯人	2	22.19
5	山室 由宇	2	22.54
6	中島 森實	3	24.1
7	張 宏意	3	24.49
8	岩川 宗一	3	25
9	富田 雄介	2	25.1
10	堀 浩樹	1	26.55
11	木下 夢実	2	26.57
12	諸井 健	7	5.59
13	森 悠輝	2	27.02
14	森田 貴大	2	27.17
15	丹羽 美結	1	27.4
16	篠原 康翔	0	28.4
17	熊倉 由羽	0	29.53
18	町田 日路	1	31
19	神永 光	0	33.52
20	高橋慎太郎	0	33.59

## 男女一般(アダルト)部門予選(8粒・10kg/10分)

順位	氏名	粒数	タイム(分.秒)
1	岩井 一泰	8	4.08
2	本間 純	8	5
3	井村 智子	8	5.05
4	石川 肇	8	6.16
5	露崎 幸	8	6.31
6	石田 政明	7	7.11
7	金子 和由	7	7.25
8	中村 軒一	7	7.44
9	天野 智美	8	8.03
10	木村 伸之	7	8.04
11	望月 康史	7	8.16
12	船村 尚起	7	9.25
13	保坂 信一	7	9.33
14	土橋 美雪	7	9.57
15	山田 恵子	6	11.16
16	錢谷 清人	6	11.55
17	高畠 覧子	7	12.28
18	上本 知美	7	12.49
19	中山 元昭	6	12.54
20	野村 敏郎	5	13.58
21	和田 後俊	5	14.36
22	澤内 裕二	6	14.41
23	星加 知宏	4	15.41
24	深沢 広太	4	15.46
25	宮坂 隆志	5	16.23
26	秋山 宗裕	4	17.11
27	近藤 道美	3	19.26
28	小俣 喜仁	3	22.24
29	高畠 正雄	3	23.23
30	林みどり	3	24.01
31	福家 祐子	2	28
32	福家 靖成	1	31

## 男女一般部門決勝(12粒/16kg/15分)



## 活動報告 03 7/27(日) 砂金甲子園！ 第22回東西中高交流砂金掘り大会

砂金掘り大会翌日の砂金甲子園。22回目となる今大会は山梨学院、開成、灘、桐朋、麻布、逗子開成、大妻、市川学園、神戸女学院、海城学園、聖心、城北(順不同)と全国から12校の生徒たちが集まり熱い試合を繰り広げました。多くは化学部や地学部に所属している生徒。部活動内で大会に向けて練習に励んできました。

砂金甲子園は「団体戦」、「個人戦」にわかつて競技し、それぞれの獲得点数で総合順位が決定します。団体戦は3kgの砂が入った15のバケツをリレー形式でパンニング。制限時間40分をどのように使いアンカーまでつなぐか、チーム力が問われます。団体戦を制したのは山梨学院、続いて逗子開成、神戸女学院となりました。一方個人戦は、各校選抜5人が先鋒から大将まで7分×5試合、さまざまなパンニング皿を使ってその技術を競います。今回使用したパンニング皿はスチールパン、バター、ビッグフット、フィニッシングパン、フラットパン。生徒たちは比重選鉱の基本をおさえつつ、各皿の特徴を活かしてパンニングしていました。そして個人戦を制したのは神戸女学院。団体戦でも好成績を残した同校は今大会の優勝者となりました。

### 団体戦(50粒/3kg×15/40分)

### 中堅(6粒 ビッグフット)

順位	校名	採取粒数	総合成績(分)
1	山梨学院	44粒	56.35分
2	逗子開成	43粒	61.00分
3	神戸女学院	38粒	73.33分
4	灘	32粒	93.31分
5	桐朋	32粒	93.41分
6	市川学園	31粒	95.59分
7	海城	31粒	96.15分
8	開成	31粒	97.00分
9	城北	30粒	99.06分
10	大妻	24粒	101.06分
11	麻布	26粒	106.18分
12	聖心女子学院	25粒	

## ■活動報告 04 8/23(土) 久間先生のものづくり教室

本教室は、ものづくりの楽しさを知ってもらおうと、湯之奥金山調査にもご尽力いただいている 久間 英樹 先生（九州大学総合研究博物館 専門研究員）を講師に招き、毎年開催しているものです。今回のテーマは「光センサロボット」。ロボット先の3つの丸いセンサが光でレールの白黒を判別し、直線や曲線上を動きます。白い部分では動き、黒い部分では止まります。今日はギアやクランクなどの部品を組み立てる工程をメインに取り組みました。完成後は、直線や曲線を印字した紙のレール上を走らせ、スムーズに動くためにはどうしたらいいか、センサの調整をしながらその動きを楽しみました。



## ■活動報告 05 8/25(日) 「金山遺跡を学ぶ」研修会にて講演

設楽町観光協会からの依頼で奥三河郷土館にて小松学芸員が講演しました。愛知県設楽町は中世や昭和期に稼業した津具金山をはじめ、産金の地として知られており、地元の方々がその歴史解明に向けて取り組んでいます。この日は地元ガイドや博物館関係者、大学教授、教員など多くの方が足を運んでくださいました。講演会前半は湯之奥金山の歴史や研究状況について、後半は参加者から活発な質疑応答を受け、比較研究の観点からも良い機会となりました。

## ■活動報告 06 8/30(土) 戦国博覧会 10/18(土) みのぶフェスにて出張砂金採り

愛知県新城市で開催された「戦国博覧会」と当町のクラフトパークで行われた「みのぶフェス」にて出張砂金採りブースを開きました。来場者のみなさんは館内の砂金採り体験とは一味違うようすを楽しんでいました。

## ■活動報告 07 9/13(土) 山の洲文化財交流事業シンポジウムにて講演

令和6年7月に佐渡金銀山が「佐渡の金山」として世界遺産に登録されました。これに注目し、「甲斐・佐渡の金山と日本の鉱山文化：武田、上杉そして徳川へ」と題したシンポジウムが開催されました。当館からは小松学芸員が「甲斐金山の技術と文化」として報告し、パネルディスカッションには伊藤学芸員も登壇しました。博物館パンフレットコーナーにて、本シンポジウムの資料を配布中です。ご興味のある方はぜひ手にとってご覧ください。※資料はなくなり次第終了。

## ■トピックス 10/12(日) 祝！総有料入館者数 53万人

3連休の中日であるこの日、53万人目となるお客様をおむかえしました。記念入館者となったのは静岡県富士宮市からお越しの中村さん。博物館から記念として図録と博物館オリジナルグッズがプレゼントされました。突然のことに驚きながらもたいへん喜んでいただけたようでした。

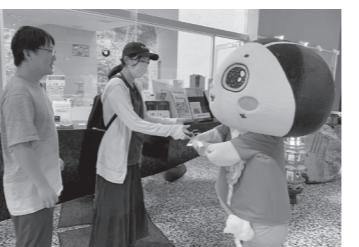
## ■もーん父さんトピックス

☆9/27(土) ご当地キャラカーニバル in ぐんま 2025 で博物館を PR

☆10/7(火) FMフジ「Bumpy」ラジオ取材 10/15(水) 22(水)の2回にわたって放送

☆10/25(土) クラフトフェア(@クラフトパーク)にて来場者と交流

これから予定 ☆11/30(日) 「第18回 志木市民まつり」におでかけ



## 文化財 トピックス

## 町の鳥ブッポウソウの保護について

文化振興担当 深沢広太



▲もっとくわしく  
知りたい方はこちら

今年4月から組織改編により金山博物館担当は文化財担当と統合し、文化振興担当として再スタートしました。私は2007年に身延町の文化財主事に奉職して以来初の異動となりましたが、博物館業務に関わる傍ら、引き続き文化財保護業務を担当しています。



身延町には日蓮宗総本山身延山久遠寺のご宝物や世界文化遺産富士山の構成資産である本栖湖、甲斐源氏や穴山氏に由来する文化財が多く伝わり、その件数は県下第2位を誇ります。また、気候においては静岡方面の温暖域から甲府盆地の寒冷地への境にあたるため、暖地性植物の北限として見られる樹木もあり、そうした豊かな自然を象徴する天然記念物が多いことも特徴です。今回はその中で町の鳥ブッポウソウの保護について紹介いたします。

ブッポウソウは東南アジアの島々より、5月初旬に日本へ飛来する夏鳥です。全長約30cm、体重約150g、オスメス同色で頭部は黒褐色、体は青緑色、嘴と脚は朱色、初列風切羽に大きな白斑があり、飛ぶと目立ちます。樹洞やキツツキの古巣、建物の隙間、巣箱で繁殖し、3~5個の卵を産みます。「ゲッゲッゲッ」または「ゲゲゲゲッ」とカエルのような声で鳴きます。古来、夜になると「ブッポウソウ(仏法僧)」と鳴き、その姿の美しさから靈鳥とされました。昭和10年(1935)に声の主がフクロウの仲間のコノハズクであることが判明し、ブッポウソウは「姿のブッポウソウ」、コノハズクは「声のブッポウソウ」とも呼ばれるようになりました。

身延山久遠寺周辺はかつて全国有数のブッポウソウ繁殖地として知られ、昭和12年(1937)年に国の天然記念物に指定されました。指定区域の山林にはスギ・ヒノキ、境内地にはシダレザクラの巨樹・古木があります。室町時代に植えられたと伝わる杉並木もあり、かつてブッポウソウはこの樹洞等で営巣していました。指定当時は久遠寺周辺で10つがい以上の営巣が確認されており、長年初夏を告げる風物詩の一つとして地元住民に親しまれてきましたが、1990年代以降個体数が激減し、現在は町全体でも数つがい程になってしまいました。全国的にも希少な鳥で環境省レッドデータブック2017では絶滅危惧IB類に指定されています。個体数の減少に伴い町民との接点が薄らいでいますが、2014年には町の合併10周年記念事業でブッポウソウが「町の鳥」に選ばれ、2016年には新生身延中学校の校章にこの鳥をモチーフとしたデザイン案が採用されました。

身延町教育委員会では2008年よりブッポウソウを保護し、適切に後世へ継承していくため、野鳥研究者等の助言を得ながら巣箱の設置やモニタリング調査などの保護活動を継続しています。今年は町内に17個の巣箱を設置し、4つの巣箱に利用痕跡が残っていました。保護活動を始めた頃はほぼゼロに等しい状況であつただけに、少しずつ復活の期待が高まっていますが、未だに絶滅の危機を脱したと言いたい状況です。農村人口の減少や高齢化に伴う里山環境の衰退、地球温暖化に伴う自然環境の変化にいかに対応していくか…。ブッポウソウを守るために課題は山積していますが、町の豊かな自然の象徴として継承していくけるよう今後も保護活動を続けてまいりたいと思います。

なお、5月よりブッポウソウの標本を博物館玄関に展示しています。コバルトブルーのとても美しい羽根も間近で観察できますので、身近な自然にふれるきっかけとして、ぜひ足を止めてご覧ください。また、2階ジオラマ展示の中にも目をこらすとブッポウソウのつがいが…こちらもぜひ探してみてください。